Tears in Heaven

Written by : Pumpkin
Illustration by : Kuro

【一日目】

シャッターの音に囲まれつつ、私は深々と頭を下げていた。

驚くべきことに、私たちプリズムリバー楽団は解散するそうだ。

「理由は……音楽性の違いです」

さらに驚くべきことには、なんと音楽性の違いで解散するそうだ。こんな滅茶苦茶な編成で演奏している私たちに、音楽性が相違していない瞬間などあったのだろうか？　少なくとも私には記憶にない。

「ルナサさん！　質問していいでしょうか！」

「申し訳ないのですが、質問の時間は設けておりません。今回は解散を決定したことに対しての報告のみの場とさせていただきたいと思っています」

質問に対して答える気なんてない。どうして解散しなきゃいけないのかなんて、そもそも私自身が理解出来ていない……いや、理解出来ていないわけでもない。理解は出来る。あまりに馬鹿馬鹿しいと思うだけで。

中身の無い言葉を一方的に述べ続けて、記者会見は終わった。私たちは記者達の声を背に、楽屋へと足を向けた。

「一切質問を受け付けないならなぜ記者会見なんて開いたんですか！　横暴ですよ！」

「そうだそうだ！」

「ファンの皆さんも解散ライブがあるのかは気になっているはずですよ！」

向こうには向こうの言い分があるのだろう。忙しい中時間を割いて駆けつけただの、こんな内容じゃ記事にならないから上司に叱られるだの、普段宣伝に協力してやってるのにふざけるなだのなんだの――向こうにとっては正当な理由もあるのだろう。

この空間にいることが辛くてならなかった。先頭のリリカはいつの間にか楽屋に戻っていた。メルランも戻っていた。

でも、私はゆっくりゆっくりと足を進める。無慈悲に切られるシャッター、誰かの代弁者を気取った連中の怒号。それを受け止めることは、せめてもの責任だろう。

――ねえ、レイラ。

私は心の中で呟く、迷ったときも困ったときも、いつでも私は問いかけてしまう。

決して返事をしてはくれない。私たちの妹に。